

被災体験への再曝露が子どもの心的外傷後成長に及ぼす影響に関する研究

著者	吉田 弘和
号	86
学位授与機関	Tohoku University
学位授与番号	医博第3566号
URL	http://hdl.handle.net/10097/00123247

氏 名	よしだ ひろかず 吉田 弘和
学 位 の 種 類	博士 (医学)
学位授与年月日	平成 28 年 9 月 26 日
学位授与の条件	学位規則第 4 条第 1 項
研 究 科 専 攻	東北大学大学院医学系研究科 (博士課程) 医科学専攻
学 位 論 文 題 目	被災体験への再曝露が子どもの心的外傷後成長に及ぼす影響 に関する研究
論 文 審 査 委 員	主査 教授 富田 博秋 教授 呉 繁夫 教授 栗山 進一

論 文 内 容 要 旨

心的外傷後成長 (Post-traumatic growth、以下 PTG) は、「人生における危機的な出来事やトラウマティックな出来事との精神的なもがき・闘いの結果としてもたらされる、ポジティブな心理的変容の体験」と定義される。若年者の PTG に影響を与える因子については、いまだ明らかにされておらず、その説明は PTG 全体の理解に大きな影響を持っている。

本研究では、東日本大震災で甚大な被害のあった地域の小学 4 年生から中学 3 年生 ($n=3,337$) を対象として、震災後 31 か月時点で、改訂版子ども用心的外傷後成長評価尺度 (the revised Post-traumatic Growth Inventory for Children、以下 PTGI-C-R) と子ども版災害後ストレス評価尺度 (the Post Traumatic Stress Symptoms for Children 15 items、以下 PTSSC15) という 2 つの自記式評価尺度を実施した。被災体験、震災前のトラウマ体験、震災の記憶に関する態度については保護者と担任教員に調査を行い、これらの因子の PTG への影響を評価した。

本研究では、調査活動のみならず、調査によってメンタルヘルスが悪いと判断された子どもに対する支援活動も同時並行で行った。具体的には、調査によってハイリスクと考えられた子どものリストを各学校へフィードバックし教育場面での支援に役立ててもらふこと、教員への子どものメンタルヘルスに関する研修の実施、精神医学的問題が心配される子どもに関する巡回相談活動、である。

PTGI-C-R と性別、被災体験には統計学的に有意な関連はなかった。しかし、PTGI-C-R は年齢と負の相関が認められ ($r=-0.132$, $P<0.01$)、PTGI-C-R と PTSSC15 には非常に弱い負の相関が認められた ($r=-0.096$, $P<0.01$)。PTGI-C-R と、法事参加 ($P<0.01$) やメディア視聴 ($P<0.01$) に関する前向きな態度には有意な関係が認められた。PTG をもたらすプロセスの中で、意図的反芻に相当する事柄への前向きな態度は、自然災害後の子どもの PTG との間に、正の相関関係があることが明らかとなった。

審 査 結 果 の 要 旨

博士論文題目被災体験への再曝露が子どもの心的外傷後成長に及ぼす影響に関する研究.....

所属専攻・分野名医科学専攻 災害精神医学 分野.....

学籍番号 B2MD5143氏名 吉田 弘和.....

本博士論文の背景として、大災害などの人生における危機的な出来事やトラウマティックな出来事に際して起こる精神的なものがき・闘いの結果としてもたらされるポジティブな心理的変容の体験として概念形成がなされてきている心的外傷後成長（Post-traumatic growth、以下 PTG）が、これまで成人を対象とする調査研究に基づいてなされてきており、若年者の PTG に影響を与える因子の特定は重要課題であると考えられるにも関わらず、いまだ明らかにされていないことがあげられる。本論文は、この状況をうけ、東日本大震災に被災した児童を対象として PTG の子どもにおける特性を世界に先駆けてプロファイルするとともに、子どものメンタルヘルス支援の課題となる PTG に影響を及ぼし得る要因として、災害後中長期における被災体験への再曝露の PTG への影響を検証することを目指したものである。目的を遂行するため、東日本大震災で甚大な被害のあった地域の小学 4 年生から中学 3 年生（ $n = 3,337$ ）を対象として、震災後 31 か月時点で、対象児童の被災体験、子ども版災害後ストレス評価尺度（the Post Traumatic Stress Symptoms for Children 15 items）、改訂版子ども用心的外傷後成長評価尺度（the revised Post-traumatic Growth Inventory for Children）による心的外傷後ストレス反応（PTSR）と PTG の評価、震災前のトラウマ体験の有無、震災の記憶に関する態度について評価を児童・保護者・教員を対象とする質問紙調査により情報を集積し、これらの因子の PTG への影響の解析が行われた。本研究実施に際しては、調査活動のみならず、調査によってハイリスクと考えられた子どもの情報を各学校の担当者へフィードバックし教育場面での支援に役立てるとともに、教員への子どものメンタルヘルスに関する研修の実施、精神医学的問題が心配される子どもに関する巡回相談活動などの支援活動を並行して行われた。PTG と性別、被災体験には統計学的に有意な関連はなかった。一方、PTG は年齢と負の相関が認められ（ $r = -0.132$ 、 $P < 0.01$ ）、PTG と PTSR には非常に弱い負の相関が認められた（ $r = -0.096$ 、 $P < 0.01$ ）。PTG と、法事参加（ $P < 0.01$ ）やメディア視聴（ $P < 0.01$ ）に関する前向きな態度に有意な相関を認められたのに対して、PTSR とこれらの態度との間には有意な相関を認めなかった。本研究は世界に先駆けて子どもの PTG のプロファイルを示し、今後の子どもの PTG の把握と支援への活用の端緒となるだけでなく、災害後中長期に被災した子どもが記憶の想起に繋がるメディアを視聴することや法事に参加することの肯定的な意義を示すことで、災害後の児童のメンタルヘルス支援のあり方に一定の根拠を示したことにも本研究の意義が認められる。よって、本論文は博士（医学）の学位論文として合格と認める。